

舊記

享保元

拾四

菊
180
12

松虎

富山大学

菊池文書

575

享保元丙申年

石
長七博入
吉○吉入
新金博入

石
丁三
の業
入
入
入

享保元丙申年目錄

一張 陽也之我身而我身

一定 移地而移地 不川筋之附割

一大 西村善之將加之陽之我身而我身 連書

一 此年貢の分數才お浪る極

一 新川郡合下山村四部之陽物富之我身而

一 在桑り一畑也之我身而井我身

一市上便之外惟御役人巡閱乃是美事云云云云

一諸色下盡之信有衆沙常種臭惡種恒憂之故爲心信
亦之多有衆沙常種臭惡種恒憂之故爲心信

一日用薺り 用り 根こ 之の 皮かわ 口くち 取と

一諸色止之義身 般若系

一后虫村又寄屋而棲於人蓋之
以舟也

二小松公弟教為揚州張氏之弟所所弱

一公方樣 蔓花御之御弱

一馬割二斤終三斤菊高

一 汴系水及附水

百姓服叛之義三月而卒

一享保与改之年而觐

一御苑書人
益書人
張張

一
江
沈
水
清
氣
永
此
我
東

一 相模前出流を

一 中田村自土より

一 新又川 根又川 古河川 普徳寺

一 北沢川 旧新 水通

一 博瑞院 雨漏 普徳寺

一 市部 市部 古河川

一 長舟 運賃 古河川

一 市部 市部 古河川

一 川 深田 市部 古河川

一 市部 市部 古河川

一 市部 市部 古河川

一 市部 市部 古河川

一 市部 市部 古河川

一 市部 市部 古河川

一 市上使市通行するに就て

一 集用するに及んで利便の便を

一 金銀銅鉛土塩出たるに及んで

一 諸色を市に及んで

一 市家中に酒賣り出たるに及んで

一 兼大老たるに及んで村方に及んで人他國に出たるに及んで

一 市貨物に及んで無償に及んで

一 林檎市に出たるに及んで

一 右の市に及んで

一 押る市に及んで

一 去年の市に及んで

一 市に及んで

一 去年の市に及んで

一 市に及んで

一 市に及んで

賞

一當年早禾為秋穀耕忙此期估買麥草

一村百姓申魚捕魚之馬所捕魚年供之用定之在法之方々

万葉に別年と海平銀河の源標榜の中流の全所を

一 改修方廿年、改修歴年三々々、此の如き、子法々々、

のちふてゑんふこのり作休に來のすす中

一、常以村泊以爲一節、小舟往來、索之、中安、改他、世、亦、中、

乃不估振ノ升總ノ成之ニ振ノ一ノ世中

一物毎名代中うせふはる
自然不儀ありて人
あり哉

度

一、市子族と有公人又ハ河方宗分ありて言ふ持者親於本
たりしを家内述む如く勝手と貴うと極ニ下ルと意
持高小里子不足此化より久し引述中者八十打希は持高ノ
中石一の中中毎春上流り得先總ふより引も年々引述
中中より衆中紙細よりおやといひに総十村のふやき
不道百姓物仕るやとの同名つきあひ仕耕化と云
少治に依れしものゝ義州ものかきり忘への為世神事
一家別改書する中返村所業對白姓は并用と云ふ

菊池逐角

大塚山古史

甲辰

歸接姑人

十

村中

子

太平古寺振
福昌八帝古

川西

小矢部河

中道七言詩
神子回孫三弟振

新

陽原陣右馬振
小倉常大馬振
木村甚茂振

能韻

依之
喜
處
根

か
州

加久古助之根
實田信茂根

[illegible]

四月六日

定按地所

享保九年

張海岳

十村中

賞

一 山本武拾貳

藤澤郡大田村吉六郎奉表子

七かき係

但し新福光村の如き氣取也せしれ 爲す喜六郎未だ縁取
其此

大田通、河津山と云

戸出村

正徳六年二月二日

大田島新判

市島代

吉六郎之弟也

市島新判

一 前清能光野新村以振持之國と云者其此代仕奉貢其

之肉或人より前々或名余申請より二名余不足仕奉引余

お知不中申請稻并屏難殺おも縮仕持た不呈承、あひ中

三月右分教仕振持多仕持承下三年貢承、平地中より

達為年貢貢承財至中者もあふし、こより出二の中民海

中より金後仕奉引持、一、後中其持仕奉

享保元年二月七日

金澤新判所

田中村員外郎
戸部又右衛門

賞

八石八斗

西膳寺

五石八斗

春日吉江

九石六斗

石代

九石八斗

石代

右村之正徳四年は松坂川高き水南川他噴きたる通年
方今御場より後よりやねはるよりより文帳原上より
二月廿六日 吉原之徳富岡中より代忠四郎

番代

伊之橋

中川中 泉所

大瀬村より馬鈴七拾壹ヶ村村廻仕所取書より
一 白地中より中後為政令長所信地面より村より所取書より
一 為政判取書より
一 田方野原仕方のこと甚多記三四所より田方所より
一 寄海より山は中耕他方より石を採り中後より

不中り白け美三井後美中を再行美三井中已付
一の仕事中の山南出の先古名名素お下しこの中の中中中中中
素の中中中中

申三月十三日

如船
師子行換

田中村資直
戸部村資直
金部村資直
苗部村資直
三井村資直

賞

川部村資直
田中村資直

苗部村資直
三井村資直
杉部村資直
相部村資直
戸部村資直

右清代官師花部右女部
師信上中中中

宝永七年九月十一日

田中村
川部村
孫
六日

苗修村

次新島日

三井村

乙子節日

杉本新島

乙子節日

杉上新島

乙子節八日

戸新島

乙子節日

師算用場

但正徳四年分右新島と左新島中

藤原村より新島と左新島とへ新島より新島とへ
藤原用場より新島とへ新島とへ
藤原村より新島とへ新島とへ

乙未
三月廿九日

成康内務助平

玉井勘解由平

前田徳助平

古原六郎及

加藤新島及

藤原村より新島と左新島とへ新島より新島とへ

我西宗家老元近お達し候へ次第後よりおあしひ方と
進捕はれこのうへに宗家老元は後宗家の様を
り別宗家老元は我西宗家老元と上

十二月十九日

御祭用儀

古屋六郎及

加茂水戸及

太極陽科水兩所新山新より多量なる米喜近きとの
進多將為仕候なるは百粒に米も上田畑に
たふさるる水戸より一雨に新米は新米なるは新米

おとり相達し候へ太極陽科 御祭用儀 進多將為仕候なるは百粒に米も上田畑に

老元宗家老元は我西宗家老元は後宗家の様を
振成は我西宗家老元は我西宗家老元は後宗家の様を
と判り止しとせし候へお達し候へ

丙申 二月

古屋六郎

五金

加茂水戸及

中田 金屋寺江 大徳 桂生 内膳 同中 大西 戸あ

三度 甘南

一、新金銀逐日通行——小札を喰ふ小玉てハ喜上小
残る所の之郵金中敷を減——以依て元銀金逐日
と申——本年丁酉三月と候——中納言戊戌正月
より世上と通用一切小停止たる為事と申

一 之 豫金と海用停止と屢示して或は是を國策との
半しまた之を盡せしむるに及ばざるを以て引移す小ねの
て新に示す月移り中ハ別外たる爲一 降伏すて示
海用停止と止は月移り少金を加へり中ハある處

一 小瓶と金通用と限もけ厚程よく沙詰あり骨
之深金いふ及き小瓶金門程と申も中心ある
厚手、支

右方之交易所は右の如く之銀貨等の銀の申しは右の如くして
新銀小門は通用し之銀貨は市上り書付と銀小
遣杞なく新金銀貨と長金銀と通用する銀貨と
申す處よりやは未だ也。

正佐五年乙未十二月日

金銀通角之役身他石丹波守成於所定中書置度
 成^ハ此^ハ見^ル書^ニ旨^ヲ別^ニ我^ハ接^シ成^シ東^ノ總^ノ支^ノ能^ハ家^ノ事^ノ未^ニ
 近^ニ中^ノ後^ノ師^ノ法^ノ一^ニ上^ノ之^ハ是^ハ文^ノ總^ノ支^ノ能^ハ向^ニ也^ノ科^ノ方^ノ之^ハ要^ノハ
 夫^ハ中^ノ後^ノ是^ハ文^ノ法^ノ接^シ成^シ此^ハ帳^ノ之^ハ今^ノ中^ノ後^ノ支^ノ
 中^ノ帳^ノ之^ハ今^ノ中^ノ後^ノ支^ノ之^ハ今^ノ中^ノ後^ノ支^ノ

四月十一日

本多安房守

奧村伊豫守

前田氏作

古者六經及
加麻於太師皮

右脚去老沉脚紙面并

公義我之師堂書曾持卷以

桑名守中道、曾いふあは倫經下末に、お至近急な
の中候より佛徳を蒙る佛経切にお調逆判といふやう
に、お方々を佛徳も、お方々を佛徳の上にも此様見
早速先には、お方々のこのお通して上

京子保五車

正月十日

加減九氣大氣

古石齋

下 采 大 白 石 小 鄧 下 鄧

子中

加納

仙掌山 懷懷江 大溪 金包石江

性

三

苗為中田 下梨木 柳山

同

戸虫

金銀川務通用之紙有從

市公義樣印書也

市官并市大老樣印紙市官より出た後之紙を以

其之中の紙より取らば向條紙下束より出た要細中皮

村の所賣の市法紙より取らば市法上より取上

享保元年

正徳六年二月

田中村寛高 戸村小右衛門

金丸寺村長久 大原村大左衛門

苗邊村久吉 桂中村信重

中田村源六 三法村与右

初山村大右衛門 下村村重盛

古倉六郎殿

加藤九郎大郎殿

首

一六拾五

丁銀

上二小瓶寸方八丁但志子丁有八分宛

右哉申城端印收納花紙紙破換他紙為市用賣上

中代紙收し至五丁有八分

享保元年

正徳六年二月十日

城端守山

出右

市村長右殿 金邊吉右殿

大野九八郎殿 石野吉平殿

野口喜左殿 長田俊左殿

上小半と紙皮

右為所用素上^ウ一寸五分長^ウ吹^ウ仕仕代^ウ張^ウ文^ウ中^ウ文^ウ
 右造^ウ年^ウ居^ウ比^ウ上^ウ

城篠所系

三右馬

かき橋

右城篠中^ウ納^ウ中^ウ就^ウ為^ウ所用^ウ以^ウ資^ウと^ウ成^ウ所^ウ造^ウ年^ウ居^ウ比^ウ上^ウ

田中村 首置

戸^ウ武^ウ村^ウ 又右馬

三^ウ長^ウ村^ウ 今七郎

首

一 法^ウ手^ウけ^ウ月^ウ 但大^ウな^ウけ^ウ成^ウ馬^ウ形^ウも^ウ多^ウる

一 素^ウ毛^ウ 凡^ウ筋^ウう^ウ但^ウ多^ウり^ウ但^ウ早^ウの^ウ方^ウも^ウ多^ウる

但^ウ尾^ウ杯^ウ交^ウ毛^ウの^ウ方^ウも^ウ多^ウる

一 芦^ウ毛^ウ 凡^ウ筋^ウ或^ウ蓮^ウ鈴^ウ

一 素^ウ毛^ウ 但^ウ平^ウ首^ウの^ウ髪^ウ斗^ウ白^ウ物^ウ多^ウる

一 日^ウ一^ウノ^ウ尾^ウ 但^ウ尾^ウ白^ウ黒^ウの^ウ交^ウ方^ウも^ウ多^ウる

右何^ウも^ウ四^ウ早^ウの^ウ上^ウ一^ウる^ウ成^ウ腹^ウ内^ウ通^ウ根^ウ分^ウ脚^ウ筋^ウを^ウ成^ウ比^ウ上^ウ

二月^ウ本^ウ日^ウ

今日作若伸島松之節後ハ野所末光雪寺法住
生約万箇松師子具松匠大成ハ身右光雪寺中
絶之者為具松匠志之ナリ誰ニ絶テ何村誰右
光雪寺具松匠書絶之レト万箇松匠教ル方急キ
言アリ書カフ中法ノと云ふ處ハ其先相ヤト云
字久高ハ能知リ官定事ハ乃茲この事上成ク
中止無クハ所事止メ又成ス

二月二

金瓶梅詞話

長江

田中 久 三 苗 性 中 田 大 衛

先手越中筋赤き雪降中交際此中を尋ふ赤き
雪降中交際此中を尋ふ赤き
赤き雪降中交際此中を尋ふ赤き

丙申二月

蘄波記

村水居

新刊

張氏

佛無用世

十村中

賞

紹興民衆

五十六

十七日抄拾五ノ下

中國報

百五拾人

八
一
四
九
拾
八
年
三
月
六
日

三
法
經

百九人

八百核分三層

廿三

百鍊金丹

九
に
抄
拾
い
ふ
ら
ふ

内
務
部

百拾人

八拾三

苗
吟

百拾子

八日拾同九分三厘

大
游
輪

八十六

六百四拾五

金君正

九千

六八拾以五七五厘

大雨

卷之

三
拾九

祝山經

之

五
白接水句詩云三

利市

大正通 總督府に於て後代に於て之を以て先

富良野馬車の銀之坂峠を越え、
と一のりや、西海にくだ

改他奉詔下

二月十六日

成歙内道

核心中勢及
鄉村其富及

大に居るにふ所場は幸哉城隍古馬、和中之所、此
 所、言ふに、位、加、後、九、弟、大、所、横、所、是、り、合、日、所、集、用、場、為、先、年、
 所、林、之、分、所、雅、所、富、方、一、爲、中、昔、時、之、爲、各、年、横、一、所、字、小、於、
 所、所、名、張、所、所、方、一、合、之、爲、有、所、爲、是、所、爲、所、半、七、方、
 以、見、門、中、之、爲、大、右、他、書、八、戸、也、村、又、有、爲、之、

佛指山分教ホ佛ノ存ヲ山四是怪之爲恨
 取リ糸ニ中ニ也リ未ダ取リ糸ニ糸ニ若シ何モ中ニ被リ糸ニ

此より右の松が調り松成りて代有松がきく宛道升松果
 持成垂りし少松が系系次第道升松調り松一寸段
 冒何代他りおはれこの寸段より右調換へ玉大島
 松松より左是二松成りて代より松成りての寸段
 三都より

二月十七

加藤九郎大前

貫首島三郎大前 小島島 二島島

何代中関方へ海へこの寸段より

賞

孫傳島高松村之松島松

年代村

一 寺ヶ所

栗陽林

但中管高松三島成古加小が所し木立之寸段

一 寺ヶ所

松陽林

口松

野鹿野

一 寺ヶ所

松彩陽林

口松

山岩木村

一 寺ヶ所

松陽園松

口松

子ヶ村

但子保川高松流松道信松

口松

一 寺ヶ所

松難木陽松島松

高松村

一 臺ヶ所

一 臺ヶ所

口 龍之西村音方

山院原貝村

一 臺ヶ所

一 臺ヶ所

口 龍

山田郷

一 臺ヶ所

一 臺ヶ所

口 龍

山田郷

他 井 退傳佐

口 龍 門 橋 村 孫 六 郎 龍

一 臺ヶ所

一 臺ヶ所

伊 勢 郷 村

一 臺ヶ所

一 臺ヶ所

口 龍

中 保 村

一 臺ヶ所

一 臺ヶ所

口 龍

大 庄 郷 村

一 臺ヶ所

一 臺ヶ所

口 龍 大 庄 村 太 郎 龍

今 庄 郷 村

一 臺ヶ所

一 臺ヶ所

口 龍

上 向 田 村

他 竹 退 傳 佐 山 村 少 中 郎 龍

口 龍 中 田 村 原 方 龍

一 臺ヶ所

一 臺ヶ所

山 田 郷 村

一 臺ヶ所

一 臺ヶ所

口 龍

井 原 郷 村

一 臺ヶ所

一 臺ヶ所

口 龍

庄 原 郷 村

一 臺ヶ所

一 臺ヶ所

口 龍

庄 原 郷 村

他 庄 原 郷 村 音 方 龍

一 寺ヶ所

松佛林

口鉈

木野新林

一 寺ヶ所

松佛林

同鉈

金尾山新林

一 寺ヶ所

唐木山新林

口鉈 桂生村 松新林

浅地村

一 寺ヶ所

唐木山新林

同鉈

寺新林

松新林 寺新林

同鉈

桂生村

一 寺ヶ所

唐木山新林

口鉈 三徳村 寺新林

井新林

一 寺ヶ所

一 寺ヶ所

栗佛林

口鉈 山新林 寺新林

波新林

但中哈 山新林 寺新林

右佛林 新書上 寺新林

寺新林 寺新林

正徳六年二月十日

新書 寺新林

寺新林

寺新林

寺新林

寺新林

寺新林

寺新林

寺新林

中田村

源六

廿田島村

少

出

大正

か
若
北
島
太
郎
殿

古柏之丞殿

為氏上中又、所集用博言、右、對、損、強、也、之、願、原、也、矣、損、原、也、
 付、向、使、方、村、次、弟、九、村、市、林、足、居、仕、我、矣、之、為、也、之、以、之、只、了、少、こ、も
 林、之、し、之、以、書、上、中、申、い、の、ら、之、所、り、を、和、ト、上、之、保、之、為、也、
 師、不、此、右、こ、り、為、上、中、の、と、若、中、の、以、之、成、事、こ、り、也、之、
 市、領、國、林、し、之、中、上、中、の、こ、り、也、之、今、書、上、中、林、永、代、也、し、以、林、

[illegible]

右讀書八戶山村子有焉

書付以中ノ

一師教方所上調出後之安出者本極書上至中此後交
金澤并今在動性瑞今般酒外身或分而所究
本情素也中より師教方之教も大候為素也中より
子何より為師法を中より

古保之筆

正徳六年二月廿日

申問八人逆判

加藤邦太郎友

古保之筆友

今日御集用勘定長次郎おつ後ハ本年ノ所ニ非ズル人
小者共ニ有リ哉ニおとろたひ三九ニ逆ニ族者ニホリ年々
也計ニ有リカ、伊豆ノ諸縣ニ有リ哉、所定ノ人小者共ニ
無任所定ノ人村大百連ニ有リカ、所定ノ人小者共ニ

御集用勘定長次郎おつ後ハ本年ノ所ニ非ズル人
向後十村共ニ有リカ、所定ノ人小者共ニ
所定ノ人小者共ニ有リカ、所定ノ人小者共ニ
所定ノ人小者共ニ有リカ、所定ノ人小者共ニ

三月二日

市井村
古保之筆

諸君

書中

古保之筆

三月二十

諸君の御手紙

金谷

弟代

伊

手紙のしるし

先年 上座より 公義様より 宛為御見所御國より
此より来るより 宛為御見所御國より 宛為御見所御國より
宛為御見所御國より 宛為御見所御國より 宛為御見所御國より
宛為御見所御國より 宛為御見所御國より 宛為御見所御國より
宛為御見所御國より 宛為御見所御國より 宛為御見所御國より

年号のちのち 宛為御見所御國より 宛為御見所御國より

一 宛為御見所御國より 宛為御見所御國より 宛為御見所御國より
宛為御見所御國より 宛為御見所御國より 宛為御見所御國より
宛為御見所御國より 宛為御見所御國より 宛為御見所御國より
宛為御見所御國より 宛為御見所御國より 宛為御見所御國より

二月四日

御筆用場

加賀丸屋を御見

古き屋を御見

遣るに御見所 御見所御國より 宛為御見所御國より
宛為御見所御國より 宛為御見所御國より 宛為御見所御國より
宛為御見所御國より 宛為御見所御國より 宛為御見所御國より

右各人、所存書の多くを、
 右に記す。其の
 左に記す。其の

因所至之別過一平以上

二月子

中松

加多九部大部判
古部六部

古風六首

貴客 入客 長客 上客 諸客

久在與
与石部
原六

一
先鋒

師上使標

御義標
恒本
御終
損

為語近見亦回 其為成集筆寄 者知予亦且久吉 予留學
之何とも有るに歩記 始上二の事 予に残る事 予に定大西村

善六徳を以て爲るは凡そ何れを貴んば可く勿論此の如く

正徳六年三月九日

戶出村

子方良新

宣保元年

加藤九郎大守殿

古金六

賞

一諸物下盡しと云ふは、其の去る十村中、百歩を急ぎて中へ移りて

之者相見^ら由^り節^せり然^{しか}又^{また}浅^あ矣^や若^もし^し梓^しと^り示^し矣^や
出^で匠^し下^{した}其^{その}の^の成^{なり}所^{ところ}矣^や改^か人^{ひと}一^{ひと}刻^{こく}日^{じつ}鈔^{しやう}引^ひ更^{また}り^{なり}
今^{いま}似^に高^{たか}出^で梓^しと^り示^し矣^や諸^{しよ}人^{ひと}之^{その}所^{ところ}也^{なり}何^{いか}ん^ん仕^し匠^し所^{ところ}
法^{はふ}之^の匠^し也^{なり}他^た匠^しに^にお^おま^ま重^{おも}き^き矣^や改^か人^{ひと}之^{その}所^{ところ}也^{なり}何^{いか}ん^ん仕^し匠^し所^{ところ}
たり乃^{すなは}族^{しよ}者^{もの}之^のお^おり^{なり}也^{なり}早^{はや}竟^は人^{ひと}の^の矣^や改^か人^{ひと}并^{ひら}上^{じやう}編^{へん}
ホ^ホ之^の交^{かう}の^の為^{ため}然^{しか}交^{かう}る^{なり}と^り

附^つく^く六^{ろく}反^{はん}寺^し仕^し未^み上^{じやう}終^{しゆう}日^{じつ}影^{えい}の^の蹤^{そう}角^{かく}矣^や揮^ひ
矣^や人^{ひと}之^の交^{かう}も^も大^{だい}々^々柔^{じゆう}と^と強^{きやう}と^とあ^あり^{なり}ま^まと^と也^{なり}評^{へう}人^{ひと}之^の味^み
世^せ利^り仕^し局^{きよく}交^{かう}る^{なり}

一 矣^や他^た國^{こく}他^た領^{りやう}に^に接^{せつ}せ^るお^おり^{なり}也^{なり}人^{ひと}之^の不^ふ及^{じやく}す^{なり}其^{その}の^の故^{ゆゑ}人^{ひと}
急^{きふ}交^{かう}の^の為^{ため}曲^{きよく}申^{まう}る^{なり}又^{また}海^{かい}上^{じやう}お^おり^{なり}也^{なり}商^{しやう}賣^{ばい}仕^して^て各^{かく}に^に
々^々接^{せつ}せ^るお^おり^{なり}也^{なり}有^ある^{なり}者^{もの}と^と有^ある^{なり}者^{もの}と^と交^{かう}交^{かう}る^{なり}也^{なり}後^ごに^に新^{しん}
其^{その}の^の所^{ところ}は^は各^{かく}に^に中^{ちゆう}浦^ぽ方^{はう}人^{ひと}之^の所^{ところ}也^{なり}何^{いか}ん^ん仕^し匠^し所^{ところ}也^{なり}何^{いか}ん^ん仕^し匠^し所^{ところ}
識^し念^{ねん}ッ^ッ不^ふ希^き株^{しゆ}仕^しる^{なり}也^{なり}申^{まう}る^{なり}

一 諸^{しよ}物^{ぶつ}之^の利^りも^も其^{その}の^の故^{ゆゑ}た^ため^{ため}也^{なり}其^{その}の^の者^{もの}お^おり^{なり}也^{なり}中^{ちゆう}向^{かう}寄^き
と^とあり^{なり}也^{なり}細^{さい}り^{なり}と^と上^{じやう}り^{なり}也^{なり}の^の利^りも^も其^{その}の^の故^{ゆゑ}た^ため^{ため}也^{なり}其^{その}の^の者^{もの}お^おり^{なり}也^{なり}
り^りか^か接^{せつ}せ^るお^おり^{なり}也^{なり}中^{ちゆう}浦^ぽ方^{はう}人^{ひと}之^の所^{ところ}也^{なり}何^{いか}ん^ん仕^し匠^し所^{ところ}也^{なり}何^{いか}ん^ん仕^し匠^し所^{ところ}
一 諸^{しよ}物^{ぶつ}の^の利^りも^も其^{その}の^の故^{ゆゑ}た^ため^{ため}也^{なり}其^{その}の^の者^{もの}お^おり^{なり}也^{なり}中^{ちゆう}向^{かう}寄^き
と^とあり^{なり}也^{なり}細^{さい}り^{なり}と^と上^{じやう}り^{なり}也^{なり}の^の利^りも^も其^{その}の^の故^{ゆゑ}た^ため^{ため}也^{なり}其^{その}の^の者^{もの}お^おり^{なり}也^{なり}

安んずる重なる所係数書を抄子たれども即ち其
諸物言事と成りては其の商人の訓令に族の
一は商賣の品を中法する諸物言事と云ふ村即族
絶制止神に於てある所族の諸人百姓の等々心易
け合ひては花無きは能くも不苦の事なりと云ふ
自然と目録の所は其の所なりと云ふ所族の
ふ及中より代筆書と云ふ急な所なりと云ふ
の諸事有は者なりと云ふその所を道教は又その
所より道言上罷科と云ふ所なりと云ふ又其の所
なりと云ふ

因縁の者相立万中一なり死にた格を中なり
おる何れのものなりと云ふ所なりと云ふ諸物
此の所のなりと云ふ格言事と云ふ所なりと云ふ
此の所なりと云ふ所なりと云ふ所なりと云ふ
その所なりと云ふ所なりと云ふ所なりと云ふ
不慮の族なりと云ふ所なりと云ふ所なりと云ふ
この所なりと云ふ所なりと云ふ所なりと云ふ
この所なりと云ふ所なりと云ふ所なりと云ふ

申
三月

別紙誠是書云物々通相感と云来西之将也云云にお
りてハ陛下諸侯大にも急爰の中後光宗東出也
一の中より至るは相与諸物土産の品去る中後光宗を
その終焉と臣等皆有恩の中と云ふ事也唯念千万
と使合に云々竟と振るふは方々交へ不及制止事と心を
のろく云々第一物者氏の中後光宗の病を云々云々
来この若く云々云々云々云々云々云々云々云々云々
以後不承と族方と云々来この後人云々云々云々の
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々

一、外戚書多々殊并代我而おもひに安否を思ふ其
類は方石の中より一とて讀み

この方へ、身をお成し、何處承るべきかと、一問を、お寄
し、通人にて、法律の指教、また、見聞を、送て、せしむ
のおお送、以上

皇月木子日

古卷六

加茂元太郎

砥礪躬行接軌之十村中

遠新日用七科糸七毫當空出後三内日用銀裁申候
 如船弁破損方支日用人足銀銀毫人
 四りか極中一官二の得二也定り

申三月六日

師其用其

古之立學

加子樓於右部皮

大連市以希用場、我毎留米、米、其之細下、けぼこの
中、後、事、状、見、る、之、と、近、き、の、お、近、り、似、上、

三月十三日

加藤九段大前

卷一

古屋六郎

吳桂芳
子村山
中

賞

一諸物下中を賣買し候に夫の支取申の金交中付し候に去
冬紙面一紙中候に交りある中候を結句に候者

族控者之ハ急也。中身外に結り、心は
右より、此名不忠。公義我に形、而此に其以、中
中、無用、憐れ、お憐れ、夫、人、に、再、何、何、
名、に、得、心、を、お、此、に、持、操、れ、心、を、
海、諸、物、を、中、に、賣、買、或、他、國、に、賣、買、
を、中、に、賣、買、中、國、に、不、足、に、科、罰、を、
中、に、賣、買、或、時、に、中、國、に、
中、に、賣、買、或、時、に、中、國、に、
忽、に、中、に、賣、買、或、時、に、中、國、に、

我、神、に、中、に、賣、買、或、時、に、中、國、に、
中、に、賣、買、或、時、に、中、國、に、
以、信、に、中、に、賣、買、或、時、に、中、國、に、
中、に、賣、買、或、時、に、中、國、に、
或、時、に、中、に、賣、買、或、時、に、中、國、に、
中、に、賣、買、或、時、に、中、國、に、
中、に、賣、買、或、時、に、中、國、に、
何、方、も、中、に、賣、買、或、時、に、中、國、に、

等よりあふる交滞諸受の考より来て西郷の生を

右書中二月十九日お城後屋交滞年宛宛

列座より用着前田員他方度取扱成り

右所部所費外概と留至二十分よりお返し

戸村又右交滞諸受の考より来て西郷の生を

所用よりお返しお返し

七月十七日

改定

田中村

首名

戸村又右交滞諸受の考より来て西郷の生を

所用よりお返しお返し

先程よりお返しお返し

七月十七日

田中村

首名

戸村

戸村

小松分系部は為替札の諸貴代金銀を以て支新金銀
高揚下に就て唯今迄所領國中新金銀通用を
以て大後代新金銀高揚下は三月より小松町中へ
公義分而新金銀通用に後より上納并に當地市中と
新市銀市中に流通する等常高揚に依りて支新金銀
會所所より新市中へおらへ後より依りて仕交り方伊豆
表所中よりけりて先達より控 公義分而新金銀に依り
おらへ中よりけりて先達より控 公義分而新金銀に依り
おらへ中よりけりて先達より控 公義分而新金銀に依り
おらへ中よりけりて先達より控 公義分而新金銀に依り

右に就てこの中後より所領中及市街に

三月十九日

所領中

右新金銀通用に依りて伊豆守及市紙面は官銀換目
申かへおらへ中よりけりて先達より控 公義分而新金銀に依り
おらへ中よりけりて先達より控 公義分而新金銀に依り
おらへ中よりけりて先達より控 公義分而新金銀に依り

三月八日

所領中

新金銀通用に依りて伊豆守及市紙面は官銀換目
申かへおらへ中よりけりて先達より控 公義分而新金銀に依り
おらへ中よりけりて先達より控 公義分而新金銀に依り
おらへ中よりけりて先達より控 公義分而新金銀に依り

指成と東面との其意を右に叙れ下未と正急交り置候
中の方丈印読と云ふ所と通那物に判るべき事書候と云
先と云ふ所も右の如し候上

三月廿二日

加茂北新大市
生金
古屋六郎

下桑 大自石 小野 下牧 廿十里
加納 仙生寺 徳福江 中田 苗崎
三徳 世生 金草江 大勝 下梨
祖山 田中 戸出

公方様去月嚙之晩

苗所と云ふ所より無信以物

且亦諸般と遠く高井浦方振業多き高貴と云
と云止り候と云候中より一より遠く意り候と云八進と云
十進と云上

二月廿二日

奥村日記

古屋六郎
加茂北新大市

右所觸れ出たり候事外より我る所持候事
西と云ふ所別と云ふ所より一より遠く意り候と云八進と云
十進と云上

次子一子獨に其兄を新形刻を衣る事
いふ道に居るをいふ事

六月九日午刻

加藤おと子
右尾之雄

田中 戸部中田 金や幸江 性生 大所

苗場 三居 様

長子長女少中一りて終十村と一りやうと

小杉高松為別々刻 毎々終々 苗場 大所
佐高島 井持 苗場 幸領 社領 末を宮川 右留 仕

一 貳万四拾石

大所

一 貳万九千五百九拾石

苗場

一 貳万九千八百石

大所

一 貳万八千八百石

内務院

一 三万貳千八百拾石

三居

一 三万六千五百拾石

性生

一 貳万六千八百拾石

中田

- 一 龍乃八千五百拾八石
- 一 龍乃七千五百拾八石
- 一 龍乃三千八百拾八石
- 一 龍乃六千九百拾八石
- 一 龍乃四千八百拾八石
- 一 龍乃八千五百拾八石
- 一 龍乃八千五百拾八石

一 三十七三三六

三十七三三六 龍乃八千五百拾八石 龍乃七千五百拾八石 龍乃三千八百拾八石 龍乃六千九百拾八石 龍乃四千八百拾八石 龍乃八千五百拾八石 龍乃八千五百拾八石

大白石

加納

仙寺

牧野

少野

五十里

下桑

賞

廿五
今石動師 龍銀

同所 三後家

小矢新侯川

伊代家水 龍乃八千五百拾八石 龍乃七千五百拾八石 龍乃三千八百拾八石 龍乃六千九百拾八石 龍乃四千八百拾八石 龍乃八千五百拾八石 龍乃八千五百拾八石

性村傳右馬

田中貞右馬

三仙村右馬

金屋本村金屋

河川村田柳齋

招上村次左衛

金屋本村長右

大原村右馬

伊代家水 龍乃八千五百拾八石 龍乃七千五百拾八石 龍乃三千八百拾八石 龍乃六千九百拾八石 龍乃四千八百拾八石 龍乃八千五百拾八石 龍乃八千五百拾八石

立野
和国所

高田所

国所

田中村

国所

津幡村

乙子村

下牧野村

三清村

杉本村

加納村

乙子村

高田所

小松所

国所

下村

市本所

小野村

公生村

下桑村

津幡村

中田村

東海老板村

小野村

大白石村

下村

一 今石動高岡 即振銀前せり 即休不他法や
振銀の仕

一 武果年約所振仕 即後り振る者君いして来て要の

一 即通に別別と火と用い 中身

一 今石動の言是通い 是れおし通いこのおんは

一 自他中振新振る 深路ふや斜に終り村に

一 誤無中振との仕

一 右振ふより自他中用難を動とのや 中身

内

一 清海身即至休と家の中 外次方通のり弱

一 新川形は成は 歩通る中 中身

一 右と通はてき 万端先振と通い 中身

一 中身 中身 中身 中身 中身 中身 中身 中身 中身 中身

このおんを中

六月

加茂元部太郎
古屋六郎

藤原村水部

中身

中身

賞

子系溪川船橋

滑川河原後山

魚津

舟見村

苗崎多良寺

太田寺江村善堂

山宮河原坂部

三清村次郎吉

下梅法村常安寺

十和田村十郎

三市村善助

佛生寺村平三郎

世生村平三郎

黒新川舟橋

入膳市岩綿

内山村平三郎

生地村平三郎

田中村金七

下牧村村金七

柄上村村平八

太田河原舟橋古書立書外り松本と松本寺記

お後上系河原寺と松本寺

六月山

加藤九郎大寺
古屋寺

太田寺

一 百姓中衣服是又税多諸事未付合意の花簾
成候時たる仕敷仕者なり申毎半抄より所給通り
之節より申下候は何と云ふも物毎花簾
振子あり依り申を改改仕所申中より所成
面より候は其給申候は振子より候は再仕下候と
一万ふお通く申下候は用仕者なり候は又ハ
お且復は法事お高し百姓ふ似合仕敷仕者なり
其方
申毎改改たる候お高しは方との中より其方

才合と云ふ水脇におり一其所貯蓄給ふ不
及申其方申中分お高し万ふ申下候は之申

一 諸物費至綿費仕敷前より所別給ふは抄更し
の十段は若く他仕敷と考申合申間より加ふる
方より給ふ人同罪たる事申

一 近年諸物高き申拂座に候は成に申下候
毎年中候より所給所國用も抄繰り申下候
抄より所給より所給より所給より所給より
改改他國他領に抄給ふと申下候は申下候
改改他國他領に抄給ふと申下候は申下候

報書記の事、孝春、
沙の多世、
お物手、
お交、

一、
拙子、
是方、
お上、
お下、

お上、
お下、
お上、
お下、

丙申
六月

右、
加、

孫、
お上、

師兩代清山寺未續の月改元者月朔日享保正
作如くは江戸より未の来に其宅終文死中ニ
觸上

丙申 七月十日

本田用防守
妻有伴藤守
前田英仙守

右に述中未の来より未の来迄

七月十三日

藤田源
十村中

古屋六之丞
加藤明子守

賞

一、賞百拾月

丁銀

日

八百八拾月

藤田源氏所収納中未の来迄
以藤田源氏之八年中以藤田源氏之
百拾月宛迄之八年中以藤田源氏宛

九百拾月

同額他客所宛者之七人分年中
以藤田源氏之八年中以藤田源氏宛

百六拾月

以藤田源氏宛守或人分以藤田源氏年中
多之八拾月宛

四十八拾月

三百六拾月

壹貳三拾月

古蹟陽穀縣所出中世所產之他處所產者之并後者世遠
道者之正德六年分所產中世所產之月石所產者之
亦及中世所產者

口於音而後者之今世所產也
年中者之月石所產自宛
口於福光後者之今世所產
他年中者之月石所產自宛
同於世遠道者之拾九分所產
他年中者之月石所產自宛

京保之幸之

正德六年

陽陽縣田中村

首名也

戶名村

又右也

大田村

太右也

性生村

傍右也

金庵村

長右也

苗田村

之右也

中田村

原六

矢部所産也

右之海り就海之

一、岩月朔、田川大水、推倒材、傾敗、田中、新、田、川、水、向、
水、系、上、中、下、水、系、田、川、水、係、仕、多、是、土、係、水、入、田、分、水、為、防、
り、得、先、退、と、解、院、急、切、と、決、計、也、

一八拾壹打飲大井丁場より西川赤向呂川際最流より至哉
 入川の仕舞に木盛中より怪をかし三川際を渡り儘赤向方
 へ臨み見れば地より高川に寄る中より赤向水も出て
 川の流より妙水も入川の仕をきけり。同續下呂川際水も
 越中よりよりを渡り水も成水も又臨中より

川際^縁佛田地、水之上、青森記、其水仕、急川の右、切口
近、石廣、以下子、あいにし

一、前在村鎮改作田步向是川陸押切帶田地水系中亦有地口
加事立川陸改作是田步中亦有田下石川陸改作院入川北
下區田田地水付屋中亦有其地此原亦在急中

石代村飲水可升麥歸田地修石渠急切之役也

一上麻生村飲り無川赤向市田地遊て村廻りて家々を参りて

五番村の山中

一 岩月新田田川大水、控守村、飲改、新田と申、新田川向
水、系上中、有、か、三、川、降、仕、多、是、土、備、未、入、山、分、有、防、
り、得、先、退、と、防、院、急、切、と、申、仕、
り

一 八、指、有、村、飲、大、打、下、場、り、新田川向、岩川、降、院、水、系、
入、川、の、仕、神、と、申、成、中、有、怪、と、申、三、川、降、仕、多、是、土、
備、未、入、山、分、有、防、
り、防、中、り、得、先、退、と、防、院、急、切、と、申、仕、
り、防、院、水、系、
上、中、有、か、三、川、降、仕、多、是、土、備、未、入、山、分、有、防、
り、得、先、退、と、防、院、急、切、と、申、仕、
り

防院中

庄川
外家

一 東、保、村、領、院、新田川、降、仕、本、押、切、申、田、と、申、新、田、川、
降、院、水、系、
上、中、有、か、三、川、降、仕、多、是、土、備、未、入、山、分、有、防、
り、得、先、退、と、防、院、急、切、と、申、仕、
り

一 新、田、川、降、院、水、系、
上、中、有、か、三、川、降、仕、多、是、土、備、未、入、山、分、有、防、
り、得、先、退、と、防、院、急、切、と、申、仕、
り

一 石、代、村、飲、新田川、降、院、水、系、
上、中、有、か、三、川、降、仕、多、是、土、備、未、入、山、分、有、防、
り、得、先、退、と、防、院、急、切、と、申、仕、
り

一 上、麻、生、村、飲、新田川、降、院、水、系、
上、中、有、か、三、川、降、仕、多、是、土、備、未、入、山、分、有、防、
り、得、先、退、と、防、院、急、切、と、申、仕、
り

[illegible]

上

正德六年正月

古子保之

陳陂歌中回村

源六

以終于好

子方為

太平天子殿

福長子孫殿

右に海川陸路を經るに所數中此より所居を中とせし由に決りあり
玉成 菟中村にも所居あり所由中一迷惑有り所由速に所居諸
所より所由所居より所由中一迷惑有り

正德六年三月

高保之

源六

みき

河内北

河内北

河内北川隈の貝有る云々
普請形跡を尋ねて其大貝を同様に
一斗先以形跡を尋ねて其大貝を同様に
一斗先以形跡を尋ねて其大貝を同様に
一斗先以形跡を尋ねて其大貝を同様に

大平村

三月六日

福島八郎

田中寛右衛門

中四月朔

一 師範中

一 田中寛右衛門

一 苗多

一 麦

一 用

以上

戸部村 田中村 金七

三井村 金五

性生村 大島村 大島村

中田村 原六 下利村 定安

苗部村 金五 長七

戸部村 中田村

書付

一 中田村 原六 中田村 領川 永多 地 白姓 中 小 名 付 仕 月
中 小 名 改 進 高 中 上 高 中 上 高 中 上 高 中 上 高 中 上
恒 自 小 改 進 高 中 上 高 中 上 高 中 上 高 中 上 高 中 上
白 姓 中 小 名 付 仕 月 中 小 名 付 仕 月 中 小 名 付 仕 月
中 小 名 付 仕 月 中 小 名 付 仕 月 中 小 名 付 仕 月

正徳六年

享保三年

中田村

原六

中田村 原六

中取代
御寄銀

所引れ申付四ヶ所換り

手の上る所へ海へ申付は諸事有也此の中引れ

申す月

改代手紙

此等の上り下り申す上り下り、取替り申す上り下り、取替り申す上り下り、取替り申す上り下り

賞

新又川

一 貳百

根寄り貳百貳拾

代貳百七拾貳分

川樋切りより長拾貳百三
拾三 根寄り貳百貳拾貳分
貳分三厘六厘宛

一 六拾貳圓

一 反

代三反五分

但拾貳圓五分六分宛

一 百圓

日用銀百三拾五圓

但三圓五分九分六厘宛

惠贈 百八分六分

太形新申請人 且但三圓
七角宛

新又川より新又川

一 百五拾

根寄り貳百貳拾

大田村領川樋

一 七拾五

同額

大田村領川樋

一
下

同部

官村領建元

一四三拾

同

三石九村大塘村內村
塘仙村

一
部

部

石北打飲川德長武拾

九百五拾五

官多所云者其才也

戊子嘉禾王知府王孫公

仙臺山月寺古松石記

部以給六書五石

羞

代拾分五分九厘

但拾遺圖卷六終

音方檢入

在蘇州中環
七

用銀六兩五錢五分

但此
有
此
不
能
定

出銀一毫九分五厘

古千保川筋新所被有川より古川川筋所より山形県中野
より北野と居津に在る古川下へ是より常磐岩嶺と申す所ありて

正德六年

享保五年

田中村 寛永

戸部

集部

中
回
行
原
之

大曆七年

廿四時久矣

下物也

太平山志序

福長公在武庫

藤原朝臣河原赤美前野原河原赤下自善信
申勘案より見

一八〇

根付了御方分所

野原河原赤下自善信
上ノ御方分所

一 貳拾貫目 反

代官拾七文四厘

代官拾七文四厘

一四〇人

日用銀四拾五文

代官拾七文四厘

勘銀ノ事貴方御拾五文四厘

古野原河原赤下自善信
目録録上ノ事以上

西暦六年四月

享保三年之

大平長久寺殿

福見大平長久寺殿

久長寺

信右殿

長久寺

大平殿

久長寺

源六

久長寺

古野原

在河原赤下自善信河原赤下自善信
日用銀拾七文四厘

調書上
即虎川
新才王
子

礪波新庄川筋糸也夫所野川筋糸下自普信
申勘果りて有

一八〇 招き了りたふ所

代銀壹千貫目

野川筋糸張り糸
上り手懸り糸

一四〇拾貫目 後

代銀拾七貫目

招き了りたふ所

一四〇人

日用銀壹千貫目

招き了りたふ所

惣銀一、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

右野川筋糸下自普信
目録記上りて以上

正徳六年四月

孝保三年

大平村大寺殿

福見新庄殿

久松村 招き了りたふ所
長松村 招き了りたふ所
又吉村 招き了りたふ所
又吉村 招き了りたふ所

庄川筋糸下自普信
日用銀壹千貫目
惣銀一、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

[illegible]

正德六年四月十一日

中田村 第六

苗疆村
之古

金瓶梅

長生

廿二村
偶有魚

大溪村
大溪村

田中村
覺力

戸村
子安

太平古寺

福安弟其殿

右書分三韻定音佛氏梵書通以略示

并又天新水何自無信然至中乃大

一拾九員貳拾五文七厘

當年定以有銀而員月二の

一六拾五文

那勝銀所と當年四月市
普信不用申銀

一八拾員貳拾五文七厘

七員八の九拾五文七厘
七年申銀
以上三月

一七拾貳員三拾五文七厘

右欄勝銀正位二年所銀出銀の作申銀高以氏所銀

弟高百石三月三拾五文七厘の當年四月市切七文七厘
拾五員九文九厘の當年四月市切七文七厘

正位六年四月八日

田中村首首長
戸出所より

甲辰

御所より

前月より延運賃を割り出資引とて今月八日
以て重なる様見か今般の院に申筋の二石を何分何分と割
出筋の石何分何分と申筋の二石を何分何分と割
出筋の石何分何分と申筋の二石を何分何分と割

所爲是才の長舟と云ふは自余より遠諸色に言國に正成收絶又ハ
子細交し及別つて早長舟の故近悟持して承知諸義として
去と事三割此情去事あると六割此情中義に於ハ格別
と云ふは此去事ある中を以て後去事六割此情より七割五ア
感こりねゆて違ハ流るを海へおはん乃ち割情絶するを割
り歩ノ感こん振るありて位以上

享保三年

十月八日

申 中 中 中 中 中

普代

伊勢

張陽新好、市取納、花下并身物、お目へ、中、官案、の、手、
例、と、海、の、長、を、お、新、の、中、に、と

申 六月十二日

所 集 用 場 市

享保三年

田中村 免 金 七

戸 打 又 金 七

伊保草 田中 あり

賞

桂 松 手 打 金 七

武 田 清 手 打 金 七

小 矢 部 所 就 出 金 七

一 幸 按

古正徳九年、方所、以、納、取、結、束、後、方、以、所、身、新、金、七、
戸、前、身、見、仕、込、封、身、金、七、切、取、封、上、之、中、品、金、七、

正徳六年七月八日

享保三年

戸 打

又 金 七

所 集 用 場

川原師為請所用之代、居申、我、仲、留、之、所、中、
以、用、中、勘、銀、更、石、其、代、方、持、代、代、持、代、
一、五、道、奥、書、場、系、シ、文、館、子、更、其、系、持、
可、信、方、持、分、場、お、道、更、方、可、信、之、
陽、東、仲、右、馬
小、倉、常、右、馬
加、古、助、之

七月八日

陽、東、仲、右、馬

小、倉、常、右、馬

加、古、助、之

賞

一、高
一、六、拾、石

何、村

免、元、何、村、何、年、何、年、近、年、未、申、

或、拾、石、未、申、六、拾、石

免、元、何、村

免、元、何、村、何、年、何、年、近、年、未、申、

免、元、何、村、何、年、何、年、近、年、未、申、
免、元、何、村、何、年、何、年、近、年、未、申、
免、元、何、村、何、年、何、年、近、年、未、申、

拾、石

免、元、何、村、何、年、何、年、近、年、未、申、
免、元、何、村、何、年、何、年、近、年、未、申、
免、元、何、村、何、年、何、年、近、年、未、申、

免、元、何、村、何、年、何、年、近、年、未、申、

免、元、何、村

右筆字引免院又南沼所書又之通ハ無来分
今般所好之者ハ其出紙調をり方大ニ通之者ハ
古ノ本ナリ之方採之者調然中ニ之成之

寛保三年

七月十日

諸番目一氏

忠四郎

番代

伊左衛

諸持持人十村山近之系

追ふる金屋丸江田中ノ東城ノ筆字引免子
此大ニ取之者中ノ方採之者調然中ニ之成之

一 礪波新大西井善六氏宛向中村極願之村山
二月二日於所云申揚向中村所賣甚六日於終者以之化
日之歎せのれ仁方其日村山如お節に宗者其け之禁禁
之方其の所賣甚六日四月九日於所賣甚六日病死伝
希終者以之次傳仁方其日六月九日於所賣甚六日病死伝
之方其の所賣甚六日七月十日於所賣甚六日病死伝

一 今般 諸法神ノ方其終之終者以之化
宗者其け之者大南方ノ所賣甚六日於終者以之化
之方其の所賣甚六日七月十日於所賣甚六日病死伝

中上ノ品

享保三年七月申

大分県立総合資料館

大分県

清盛代申

今御場所改他所寄附柳古く御屋へ御申付之に敷免
人衆或は寄附仕者大少人御高所へ通申人々之敷免
為改申中より御屋所を振所人御申付御屋所寄附
大分県立者之より御屋所敷免高所敷免御屋所の中より
御屋所寄附人御申付御屋所

七月申

享保三年

清盛

清代

子方御柳

子方

正徳三年欠年申

一 百貳拾七匁

加筋

一 百貳拾七匁

銭中

一 百拾五匁

銭中

同月拂示書

一百拾分

加筋

一百五分

筋中

一百七分

筋弱

事務之筆

申 七月

師 築用場

右の如くは此の如く申すに任せて

いり

法書

又

八

而後此の十村山迄

馬代

何

公事場は所用を収め其方申すは公事場は申す

付文面を交す申すは有るは公事場は

申すは公事場は申すは公事場は申すは

申すは公事場は申すは公事場は申すは

申すは公事場は申すは公事場は申すは

申すは公事場は申すは公事場は申すは

申すは公事場は申すは公事場は申すは

申すは公事場は申すは公事場は申すは

申すは公事場は申すは公事場は申すは

服侍身れを以て年寄と云ふ所は、身れが拘於座席用場お
淑に在文面之義申古其方中、いふ事場と調心家又通書
是より事場有外、不新承意より、之後右場有外、之件候に
留在大庭之義は、後所事外、所は為る調心候、此故に依りて是外
所は、いふ調心義も終極あるべしと、調心格別方々之義は爲る、
お進一平義も、此處仕立調心文面より、此事外、所は、いふ調心
義も、お進義より、いふ是公事場中事外、所は、いふ調心より、以上
酒六日月九日

かみ
かみ
きん
し
た

高士志
平

賞

子系濟川船橋

苗清村之古海
大田車匠村之古海
山之古村之古海

清村必齋書

貴州所產

卜梅溪村市爲
十日弟村市也

魚律

三石村の古刹
佛生寺村平四郎

永貞村

性
中
性
中
性
中

十月廿一日

師見 上便来春取裁は皆し此西尾四郎兵衛に付
半花友から来り就丈師通へ道分并師通所中
体之好い先年へ迄お違方より方より中位書付の
しりしは案室水七条

上使師通へ師通房助并師通へ所書付の
一あゝい勿論に家主と物お供中へ
お又おからるる者へ家主へ主と成はる中位も書付の

中位へ書付の事へはしりしは
お改事上中位へ氏へおなり
御つて返りの上

九月十九日

師用番

加賀九郎大郎

中国 田中三郎 苗裔 子出 性生 一系

お改事上中位へ氏へおなり
御つて返りの上

一 今般私妻妾所為稱其用す得令此月々々安細に印後と上
と私私多同に印付事得共之也

一 私共在る諸事并算用合指引ホミ之を所所賣の私共中
根子承取不指之を私共根子編の付事

一 此等印用之私不指何事肝算方高下算私仕之私共
承取私共私共之付事私共方高下算私仕之私共
私共私共私共之付事印用之私共私共私共私共
一 印用之私共私共私共私共私共私共私共私共私共

依此目録負付台表ハ申

一 私共私共私共之付事印用之私共私共私共私共
所並口口口口諸私共私共私共私共私共私共

太一私一私之算用中私共私共私共私共私共私共
私共私共私共私共私共私共私共私共私共私共私共
中付私共私共私共私共私共私共私共私共私共私共私共
并所中私共私共私共私共私共私共私共私共私共私共私共

一 福共私共私共私共私共私共私共私共私共私共私共私共
印用之私共私共私共私共私共私共私共私共私共私共私共

中後

一 太く後人其の就商賣を他より移せし過失を致さず其
書付に十村男忠右衛門の如くしや上り給は方分る事酒をこの
やいむけはれも此このやいむけ以上

申

九月末七日

加蘇孔部大印

古石六

苗 澹 田 中 戶 出 三 清

金銀山并洞珍珠石先年分城也山を以城也り然但先年
城也の囃り乃退治しんおるに其京あ根々書あふり何と
右后月と心とを以城也い所々早來牛也一戸以下

九月廿一日
師筭月堪

中發市接指人并十村中

去年以来、諸名高士之上、良茂君より得て、拂塵之象なり。
我中、先り以て拂塵高ひし、今も高き、不仕録に、中、修遠

贈子宜而之。此其無益。義士志氣。有之。又其
 存焉。而指之。而之。減之。而之。仲閻中。中談以。存焉。而書
 付。而之。而書。具其事。

右通氣膏一可曾所刺取此

中

晉系三

河野守正

清血丸

金叔內出

倭并起

加卷九

今般所家中而市月意之般所月及新御後
該所中書主事以多所別紙信爲具申道
此也市中歷々之雲我臣有要振舞其文
其身會杯衣止貴之其志在仕者之貌其右
一服所家中而市月作か所月元ある百姓
あり世々しく光百姓爲者ふなり不代未休
るべき所代も来ふ新御下市之御儀也

其時より市に族を多く仕て白論に成るに依り
上程更令般 所内意に族を多く相守りて
方一其方其子系に相親に内なる上程者意に
相守りて末に其隨一の事なるに依りて之を

一宿方立と浦方山方其に時より編りて毎半
に渡りてより其に相親正に相親なるに依りて
編りてより其に相親正に相親なるに依りて
即亦対知又いかに其に相親なるに依りて
撰右に味人相とるに依りて其に相親なるに依りて

一其角より市に族を多く仕て白論に成るに依り
仕を極おはすに依りて其に相親なるに依りて
其に相親なるに依りて其に相親なるに依りて

一其角より市に族を多く仕て白論に成るに依り
者より其に相親なるに依りて其に相親なるに依りて
心持他より其に相親なるに依りて其に相親なるに依りて
仕を極おはすに依りて其に相親なるに依りて其に相親なるに依りて
心持他より其に相親なるに依りて其に相親なるに依りて

編りて其に相親なるに依りて其に相親なるに依りて

一 所部方々者此方に於て所用に依て定まると役人の
 收り出の事跡に於て中流に在りて通る者之を以て通達
 車之類に所用し、市中に於て者お有り者之を以て市役
 車之類に於て所用し、市中に於て者お有り者之を以て市役
 一 市役所用又、所用と云ふは他方より
 其所に於て役人より法外に一事務を爲す爲方と
 之を以て之を以て役人より所より之を以て
 常々之を以て之を以て之を以て之を以て
 一 市役所用之事務、油法に於て之を以て之を以て

相折に之を以て自身に於て市役所用と云ふは
 市役所用と云ふは、市役所用と云ふは、市役所用と云ふは
 市役所用と云ふは、市役所用と云ふは、市役所用と云ふは
 市役所用と云ふは、市役所用と云ふは、市役所用と云ふは

丙申正月

加茂市市役

三 市役所用 市役所用 市役所用 市役所用
 市役所用 市役所用 市役所用 市役所用
 市役所用 市役所用 市役所用 市役所用

原六
室在焉
大所
半在焉
五八

田相齋
十起齋
敬齋
十之齋

今設彌渡縣百姓共湊貸債之義者曾于前歲而為未設
於欠之國六及近事十一就其以貸債而為彌渡縣
於後之義者曾于前歲而為未設於欠之國六及近事
於彌渡縣十村共十二作設於右為貸債而為彌渡縣
於後之義者曾于前歲而為未設於欠之國六及近事
於彌渡縣十村共十二作設於右為貸債而為彌渡縣

所為為博戲ハナ一横波中位太万露方仕舟以共後中平
 竟後位迫右露方一横波中位太万露方仕舟以共後中平
 五中格ハナ一横波中位太万露方仕舟以共後中平
 所貸格ハナ一横波中位太万露方仕舟以共後中平
 依格ハナ一横波中位太万露方仕舟以共後中平

十一
十一

燕斗羽搖平古
按此以殘而旨

之方并同保其令服新印貨德能加為護其令多其丹羽
 將年令更按成其成而之皆甚之方同保其令護其成而之其

卷上

十一
月
十一
日

冲筭用塲

性
子
村
俗
在
道

一、據沈君曰此既振華自子孫懷子五的德能前內誦焉即
 貸後一五下名號者并為下就其彩虎之白臺之新日其改丹
 羽換年庚亥以瑞息一甲分中其面以今以改其得其

意中併此分爲兩段
所懷舊日十卷中余已
見其書本末甚速耳

享保元年十二月十七

申官七

即集月場

當秋端書付延川之隨先達而後書中其一二語余亦不
 能忘之去年月抄也ふり一當此小書多と申之と見立此
 もこのころと申す古紙多しあふり筋はたぬふりふり
 と使合ふ南年と多し能く不化す外に抄と多しとあり
 小一統尺三寸身尺五寸何處もはるるを早東林端書付の
 抄とてしるも延川におふりて百姓の端に中の方を裁き
 とありて成り

八月未日

張昭

改他書新下

要抄新十村中

覺

一六拾六村

内武村師接牧車影上

三
清村金系銘經

一古格不新

山亭村師拉地寺新山

廿四日村中與弟

一
乃拾人牙

門臺村而撫地有氣上

性生村傳有為記

一
八
拾
三
村

竹
臺
村
呼
拉
地
車
乾
呂

余自奉以村中舊記

九拾壹村

内
臺村佛捨地寺新石

中田村 源之丞

一
十
拾
五
村

乃
子
村
師
拉
地
子
歌
卡

大漢村古蹟

一
七
九
村

乃
孝村 源拉他寺親書

河陽村孫少雅

一六拾村

以孝村陽接也孝親公

大西村書院

方砥陂歌爲之先忠捨以爲痛乎不意之爲下世中後國之

九月廿二

京師元年也

改他奉行

孫氏既在村中

十廿中

當書納解清滿之故有清貨米之多別代好葉共之為之
以為同之の中は如何故不常源牙

一清貨米之故後米多賣出此の中は之を見立傳るも一村
も不納ノ見立と云ふ終之を申し出當年之故も此後後
仕際の中村に之を隠す故除の中は不為中他宅之取

此米之村秋納米ありやとて家持と中納ハ之を之と村
ハ秋納米ありやとて家持と中納ハ之を之と村
ある故の中は一村に貸後此後何角何角は之を之と村
尤の居不後後と云ふ中納の力も之と村

九月廿二

京師元年也

改他奉行

孫氏既

在村中

十廿中

去佛出納米佛常用今年ハ代爲御守に於て下と程、如止
為御出化所は御守中上と有る臣揚と御後ハ越中能前
之ニハ遠所との、有る今、年ハ代爲御常用を相違
而中方御出化所事新標ハ御懷骨を程、此より快
西書約少多ある、少々代名を事物の病御揚、此より快
成ハ佛常用之ニハ御揚ホ子(重)此後ハ有御家(一)而此ハ
多り快ノ可成

一 佛壇四月分取費付括上より佛壇代而古銭取付より
佛壇十月分取費付可なり至九月極月分は括上より

延寶二年戊辰の成りしに
 招き仕召せられたるに
 中々十月より十一月に
 二月一より三月に

九月

浩香園

即此

高保之筆

朱氏

仲之悵

仲
冒
衣
所

一 廣陽新當主元憲氏有米若干斗憲及其上未傳天氣不
申稿日陰早葉未厚より此五成青米實より初
ホ難撰正此佛花入後之人却其例西米撰より此
申ひいと果感付自當所由米古く不替名常米細
り此所より此當り一斗分より此為り書付名中より此上

寛永九年九月

八人同判

佛陽院

市寺外

一 寺田拾石五斗九升

中田村米高

寺田七拾石五斗四升

年

寺田三拾石五斗五升

撰物代初孫子七拾石五斗
但米高より此石宛

合

寺田五拾石五斗四升

右中田村原六石五斗此米より撰物高佛花細仕より
十日以上より此米の撰物味佳なり此上より此上

寛永九年十月

中田村原六

戸寺外より

師路他

師路他

川島山崎のちの後年季引免おれ村に六六六年ヲ限
石所を以て際限とし引免威早竟お免この多限に定年
季引免を免し多限より引免に接収しこの中引免を
威免し多限お免し多限引免に接収しこの中引免を
引免に免し多限お免し多限引免に接収しこの中引免を
引免に免し多限お免し多限引免に接収しこの中引免を

引免に免し多限お免し多限引免に接収しこの中引免を

十月朔日

吉原元年

改他奉新

孫路他

引免に免し多限お免し多限引免に接収しこの中引免を

存中我西中引免に免し多限お免し多限引免に接収しこの中引免を

め引免に免し多限お免し多限引免に接収しこの中引免を

右引免に免し多限お免し多限引免に接収しこの中引免を

引免に免し多限お免し多限引免に接収しこの中引免を

今般所貸米貸後十村敷一総切村敷迄与て有
可移成出有あて候へ迄与帳面也一可し所方有村
敷迄与て有移可移成と急用有て

享保元年

十月廿二

改化奉行

佐藤勘八

張所新

十村中

頁

中村に

一石拾貳村

今般所貸米村

有て海に流せり以上

享保元年十月廿二

張所新

佐藤

改化奉行

中村に

一石拾三村

張所新

有て海に流せり以上
今般所貸米村敷迄与て有

享保元年十月廿二

張所新

佐藤

清江先生自叙

當年歲年師之於人後之知者本月十日始知此為清江
ホと誤例と海江をこの信を清江状に集る事との

持出に上

十月十日

宮原之幸

依友仲知
中村山之居
坂孫中
小島氏
宮島持之

菊池通角

大隈通角

川口大年

知

藤原於十村市持持人申

當當近上之師貸米持上中某の年より米高おき
又近紙面おきとむ當年より米高おきとむ中貸
米借事十中より米高おきとむ中貸
より米高おきとむ中貸

當年時津引合帳来てん受取書より十村所持物人自
多の仕合所改化所より受取書より中よりして

享保元年

三月十日

佐藤性之助

基有海

兼代 伊一系

仲間八人宛

一 云 少川并持除村共々本郷所貸年小代の貸後中より借状帳上
中付分或は之長敷借立より小代同村の姓小高、借後中より小高右
より借状帳上よりとりより苗加村田地高橋村の姓九条高、貸

一 云 少川并持除村共々本郷所貸年小代の貸後中より借状帳上
中付分或は之長敷借立より小代同村の姓小高、借後中より小高右
より借状帳上よりとりより苗加村田地高橋村の姓九条高、貸

所乃振も何村誰と帳面と書入のり中

一 小代の貸後中より借状帳上より苗加村田地高橋村の姓九条高、貸

一 云 少川并持除村共々本郷所貸年小代の貸後中より借状帳上

一 云 少川并持除村共々本郷所貸年小代の貸後中より借状帳上
中付分或は之長敷借立より小代同村の姓小高、借後中より小高右
より借状帳上よりとりより苗加村田地高橋村の姓九条高、貸

其元陽血... 中...

享保三年

三月廿二

田中村

貞吉

戸主吉島

大... 能其...

貞

一 四拾石 金...

一 四拾石 内...

一 四拾石 中...

一 三拾石 大...

一 三拾石 大...

一 三拾石 大...

一 三拾石 大...

一 三拾石 大...

一 拾七石 大...

一 拾八石 大...

三石齋

[illegible]

一三拾八石

大雪村言六記

福芝芳

一
四拾五石斗

三
法村与七部

一三松石印

苗裔村之世經

十八拾五名

律呂

一
三拾九名

性生村傍石上

一
之
拾
石

大澤村志

一
四拾四石

金唐氏長子

一
百拾七

小矢部

一
日
格
石
字

内鄉村 孫六臨經

70

产业调查

一
只拾石而

中田村源六郎

7

中國書

合之而致於

右所收歌石姓仲
江正德二年
御食
并之內石之通取三

出處納仕中存本島國編書

享深元年十一月廿四日

右人

清并州場

八

一、清并州場

一、清并州場

一、清并州場

一、清并州場

一、清并州場

一、清并州場

一、清并州場

一、清并州場